
人文学部

人文学部の教育理念・目的

本学の教育理念・目的は、綜藝種智院を創設した弘法大師空海の教育理念を現代に生かし、単に「知育」教育を行うのみでなく、人間としての「こころ」の成長を促し、広く濟世利人の社会的実現を目指すところにある。人文学部は、広範な教養的知識の上に人文科学や社会科学の研究分野の専門性を高めるとともに、仏教を基盤に置いた人間の人格的向上と、自己の可能性を積極的に実現すること、併せて他者や社会全体の安寧と福祉のために積極的に行動する思想と技術を体得することを目的とする。

本学は、そのような空海の思想に根ざした「ひと・こころ・いのち」の価値観を身につけて現代社会で活躍する人材の育成を教育目標に定める。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

大学における4年間の修学により、「ひと・こころ・いのち」に関わる広範な基礎的教養を培い、その上で仏教学、社会福祉学の各々の専門的知識を修得し、各学科の所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

II カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

人文学部においては、建学の精神に基づいて、社会に貢献できる高度な知識を有した人材を育成するため、仏教学科・社会福祉学科の2学科に分け、それぞれの学科で体系的なカリキュラムを構築する。仏教学科では、①仏教の持つ精神文化・哲学、②弘法大師空海の思想、③密教が生み出した芸術、④現代社会における仏教の実践の4本柱を建てて、仏教を多角的な視点から探究できるようにカリキュラムを構築する。社会福祉学科では、①社会福祉モデル、②精神保健福祉モデル、③地域福祉モデル、④子ども福祉モデル、⑤健康福祉スポーツモデルの5つの履修モデルを設定して、各人の志向に対応した学びを深めるカリキュラムを構築するとともに、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを設置する。

III アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

本学は、平安時代初期に綜藝種智院を創設した弘法大師空海が示された教育理念を現代に受け継ぐことを目指している。そのために、単なる知識の増加や精神と乖離した技術の修得ではなく、「ひと」としての「こころ」の成長を促しつつ、「綜藝」という言葉に表現される幅広い教養と知識を身につけ、智慧と慈悲の精神に基づいて、広く社会に貢献する人材の育成を教育目標に掲げて、以下のような志向性をもつ学生の受け入れを企図する。

仏教学科

- ・ 広く仏教を学び、自己の人生の意味を明らかにしようと努力する者。
- ・ 現代社会における仏教の意義を追求し、社会貢献することを目指す者。
- ・ 真言密教を中心に学び、寺院の経営・運営に活躍する僧侶を目指す者。

社会福祉学科

- ・「利他行」の精神に基づいて社会福祉を学び、その実践を目指す者。
- ・社会福祉分野の学識を、多分野にも広げて活かすことを目指す者。

仏 教 学 科

仏教学科の教育理念・目的

仏教学科は、日本人の精神や文化に深く根ざした仏教、特に弘法大師空海の開いた真言密教を中心に、仏教の教えや歴史を体系的に教授研究するとともに、仏教の実践に関心を持てる人材を育成する。また、仏教に対する幅広い関心を持つ人々に仏教の思想・実践修行・美術など多様な有形・無形の文化的財産を通して仏教の教えや歴史を体系的に教授研究するとともに、社会文化に深く関心を持ち、そのあり方を探求しようとする人材の育成をその教育目的とする。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

大学における4年間の修学により、「ひと」としての「こころ」の成長を促しつつ、智慧と慈悲の精神に基づいて、広範な基礎知識と基本的な学習能力を身につけ、その上で、体系的に「仏教の持つ精神文化・哲学」、「弘法大師空海思想」、「密教が生み出した芸術」、「現代における仏教の実践」を学び、専門的な仏教学・密教学の知識と研究の方法論によって、問題を探求し創造的に理解する能力を得た学生で、本学所定の単位を修得した学生に学士（仏教学）の学位を授与する。

II カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

仏教学科では、建学の精神に基づき、弘法大師空海が開いた真言密教を中心として、①仏教の持つ精神文化・哲学、②弘法大師空海思想、③密教が生み出した芸術、④現代における仏教の実践の4本柱を建て、仏教を多角的な視点から探究できるようにカリキュラムを構築する。

① 仏教の持つ精神文化・哲学

仏教、ヒンドゥー教などインド発祥の諸宗教について、その思想や文化を人類の精神文化として学ぶ。また、チベット・中国・日本と伝わってきた仏教を学ぶために、文献研究の基礎となるサンスクリット語、チベット語などの語学力も養成する。さらに、インドをはじめアジア各地に根付く密教にもアプローチできる科目を置く。

② 弘法大師空海思想

弘法大師の著作や真言密教の重要な文献・資料を通して、真言密教の思想を探求する。また、実践儀礼として密教の修行方法である修法や法要に必要な儀礼、声明を一流の教授陣から学び、そして、真言密教を体系的に学べる科目を置く。

③ 密教が生み出した芸術

日本文化に深く溶け込んでいる密教の精神世界を、密教画・梵字悉曇・仏像彫刻などの仏教芸術を通して体感的に学ぶ。実習科目では、作品などを制作するための高度な技術を学び、密教芸術への理解を深めるための科目を設置する。

④ 現代社会における仏教の実践

常用經典の読み方、実際の法要の行い方、声明、布教法をはじめ、寺院後継者として寺院運営に必要な学問、僧侶としての素養を丁寧な身につけられ、そして、寺院運営を支える思想、法律、経営など周辺分野とも連携した実学教育に展開した科目も置く。

これらの4本柱を基としてそれぞれの科目を構築し、1年次から年次をおって体系的に学習できるように以下のような方針でカリキュラムを編成する。

- (1) 1年次では、広範な基礎知識と学習能力を獲得するために人文学部共通教育科目として、建学の精神、仏教学・密教学の入門、語学、キャリア支援として寺院の運営等の科目を置き、また、専門科目の中の実習科目を履修できるようにして実践的な仏教・密教を学べるようにする。そして、仏教学入門演習を置き、仏教の学習の入門を学ばせるとともに担任制を導入する。
- (2) 2年次からは、専門的な知識と方法論を体系的に学ぶために、仏教学科専門科目として、仏教学・密教学・真言学・密教文化の概論科目、インド・中国・日本の仏教史科目、インド・中国・日本の密教史科目、真言宗史、仏教・密教の教理学科目、インド・仏教・密教の文化学科目、仏教・密教・真言学の講読科目等を置き、専門的な知識を得られるようにし、そして、仏教学基礎演習では、仏教の基本的な学習方法を学ばせるとともに担当教員を2年次の担任とする。
- (3) 3年次からは、仏教学・密教学・真言学・密教文化の研究科目を置き、専門的に学習できるようにして専門性を高めるとともに自身で研究が行えるようにするために仏教学専門演習を置く。この演習も担任制を兼ねている。
- (4) 4年次においては、仏教・密教の教理学科目、インド・仏教・密教の文化学科目、仏教・密教・真言学の講読科目、仏教学・密教学・真言学・密教文化の研究科目等により深い専門的な知識を身につけ、研究の方法論をより具体的に学び、大学4年間の総決算としての卒業論文を執筆できるように仏教学卒業論文演習を置いて担当教員を担任として個別に指導する。

Ⅲ アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

弘法大師空海が開いた真言宗を中心とした密教学の教えや歴史、そして、その根幹となる仏教学を仏教・密教の思想・実践修行・美術など多様な有形・無形の文化的財産を通して体系的に教授研究することにより、仏教学・密教学を広く学び、自己の人生の意味を明らかにしようとするもので、現代社会における仏教の意義を追求し、社会貢献することや、真言密教を中心に学び、寺院の経営・運営に活躍する僧侶を目指す人材を受け入れる。

社会福祉学科

社会福祉学科の教育理念・目的

社会福祉学科は、人間が社会や大自然をすべて包み込んだ生命世界に生かされているという仏教思想に根ざし、社会福祉の理論、歴史、技術を中心に体系的に教授研究するとともに、現代社会で生じる諸問題について大局的に考え、専門的支援を行える人材の育成をその教育目標とする。

福祉の現場に必要なものは「やさしさ」だけではない。権利擁護を基礎として、様々な問題に対応し解決していくためのぶれない「つよさ」も大事である。社会福祉学科では、「やさしさ」と「つよさ」を兼ね備えたプロのソーシャルワーカーを養成する。我われを取り巻く厳しい現実を知り、人に寄り添う支援の原理と技術を学ぶため、学生どうしのグループ活動や障害者・高齢者・子どもたちなどとコミュニケーションを図る実践的な学習を展開する。こうした教育により、豊かな心を持ち、常に相手の立場から福祉のあり方を考えられる人材の輩出を目指す。

I ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

大学における4年間の修学により、本学所定の単位を修得し、「ひと・こころ・いのち」を体系的に捉える仏教的視座を培い、なおかつ社会福祉の知識・技能・倫理を備えた実践力あるソーシャルワーカーとして社会福祉現場やその他の実社会の分野において活躍するにふさわしい素養を身につけたと判断される学生に学士（社会福祉学）の学位を授与する。

II カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

社会福祉学科は、国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士の養成に対応した学科であり、主軸となる科目設置も社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目が中心となる。希望する学生には社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格を同時に取得できるカリキュラムを設定し、4年次生（卒業見込生）で国家試験の受験が可能となるように科目編成する。

また、学内で学んだ知識や技術を、相談援助実習や精神保健福祉現場実習等の福祉現場での体験的・試行的な学習を通じて、実践力として涵養することを目指す。

社会福祉士・精神保健福祉士以外の社会福祉領域等での進路を志向する学生に対しては、保育士・介護福祉士等の資格を目指す上での基礎科目も設置するほか、それ以外の幅広い福祉実践領域の実体験を含む科目を設置し、様々な進路の開拓を支援する。

学生が少人数である利点を活かして、規模の大きな大学にありがちな教員と学生との一方通行な関係に陥らないよう、教員が個々の学生の個性をよく把握しながら教育を行い学生指導にあたる体制をとることができる。そのため、演習系の科目だけでなく、講義科目においても双方向的なコミュニケーションをとりながら学ぶことを目指す。

その他、カリキュラムに関しては、仏教が説く「利他行」の精神を学ぶため、すべての学生が必修科目（一部選択必修）として履修する基幹教養科目として「仏教入門」「宗教と福祉」などを必修とし、「基幹教養科目群」（選択必修）としては「密教入門」「仏教と現代社会」「仏教と習俗」「仏教と文化」「仏教と生命倫理」などの科目を配置する。建学の精神に基づき「ひと・

こころ・いのち」を体系的に捉える仏教的視座を培った上で、社会福祉の専門的素養を備えた実践力あるソーシャルワーカーを養成するよう編成する。

以上の方針をふまえて、学生が希望する進路に沿って履修できるよう、参考となる5つの履修モデルを設定する。

① 社会福祉モデル：誰もが安心して生活するための支援方法を学ぶ

社会福祉のスペシャリスト（社会福祉相談援助専門職）として、高齢者や障害のある人、社会生活を営むうえで困難を抱える人などを支援するソーシャルワーカーの養成を目指す。

② 精神保健福祉モデル：心のケアに貢献する支援方法を学ぶ

精神保健福祉のスペシャリスト（精神保健福祉相談援助職）として知識・技能・倫理観を学び精神保健の向上および精神障害者の医療福祉及び地域生活を支援するソーシャルワーカーの養成を目指す。

③ 地域福祉モデル：「福祉マインド」を持ち、広く社会に羽ばたく人材を育成

社会政策とソーシャルワークの両面を広く学び、生活センスを養うと同時に他者を理解する心を育む。社会で求められる「福祉マインド」を備えた、行政や社会福祉協議会等で活躍できる人材の育成を目指す。

④ 子ども福祉モデル：子どもを理解し、健やかな成長を支援するための学び

児童福祉と保育、発達心理などを総合的に学び、児童虐待や不登校など複雑さを増す児童問題に対応して、家庭や地域とともに保育所や学校、行政・民間団体などと連携して問題解決できる人材の育成を目指す。

⑤ 健康福祉スポーツモデル：スポーツと社会福祉の融合、健康な未来を作る学び

高齢者や障害者福祉施設などにおいて、スポーツ活動、介護予防、レクリエーション指導などを通じて利用者の身体機能の維持・向上、生活の質の向上を図ることのできる人材の育成を目指す。

Ⅲ アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

社会的に弱い立場にある人たちの自立を支援する志を抱き、ノーマライゼーション社会の実現に向けての理想を持ち、人と人とのコミュニケーションが適切にとれる人材を受け入れる。主な柱として次の2点を中心にすえる。

- (1)、仏教が説く「利他行」の精神に基づき、学問としての社会福祉を学び、社会福祉・精神保健福祉などの福祉現場での実践に通用する国家資格取得希望者を受け入れる。
- (2) 社会福祉分野における学びを、自己の将来において社会福祉以外の様々な分野においても応用して活かそうとする志をもつ人材を受け入れる。